

第3学年 道徳科学習指導案

令和元年6月18日(火) 第5校時

- 1 主題名 友達ならどうする 内容項目〔B 友情・信頼〕
- 2 ねらい 絵葉書のことを友達に伝えるか、伝えないかを話し合う活動を通して、友達との心のつながりの大切さを自覚し、互いに信頼し合い、助け合おうとする心情を育てる。
- 教材名 「絵葉書と切手」 (出典:「みんなのどうとく 3年」学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、学習指導要領の内容項目Bの〔友情・信頼〕「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」を深めることを意図したものである。これは、低学年の内容項目Bの友情、信頼「友達と仲よくし、助け合うこと」を受け、さらに高学年の内容項目Bの友情、信頼「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」へと発展していく。また、中学校の「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」にもつながっていく。

社会生活の中で友達はとても大きな存在である。自分が困っているときには助けてくれたり、なぐさめてくれたりする。また、親や先生に言えないことでも、友達には話せることがある。子供たちにとって、友情は最も重要な人間関係の一つであり、安心して楽しく過ごすためには欠くことのできないものである。一方で、ただ単に気が合うから、利害が一致するからなどの理由で表面的な友達、友情であることも多い。本当の友情とは、信頼し、助け合い、励まし合いながら、ともに人間的に成長していくことができるものである。そのような友情を築いていくためには、互いの長所を認め合い、欠点を指摘されれば直そうと努力する必要がある。「忠告」という行為は、単に相手の欠点や過失を指摘するのではなく、相手のことを真剣に考え、真心を込め、思いやることが大切である。そういった信頼関係の上に忠告という行為が成り立ち、友達同士が互いに励まし合い、さらに友情が深まると考える。

この時期の子供たちは、楽しいことを一緒にできる、仲良く遊べる、励ましたりほめたりしてくれるなど、気の合う友達同士で自分たちの世界を作り、その集団での活動が多くなる。相手の気持ちを考えて行動することができ始めるが、一方で気の合う友達と楽しく過ごせればよいという考えにとどまりがちである。

指導に当たっては、友達との心のつながりの大切さを自覚して、互いに信頼し合い、助け合おうとする心情を育てることが重要であると考ええる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級は、学級経営の一環として、道徳の時間のみならず、学級に関わる様々な問題について、日常生活の中で機会を設けて児童と話し合いながら解決にあたっている。学級の問題に対して、直接関係のない児童でも、自分のことのように考えながら意見を述べるができる。しかし、1つの答えではなく、様々な考え方や価値にふれながら自分の考えを述べる道徳に対して消極的な児童が多い。

児童はこれまでに、道徳科の内容項目「B 友情・信頼」について、「貝がら」で「相手の身になって考え、信頼を深め、困っているときなど互いに助け合おうとする気持ち」についても学習した。学習や日々の生活を通して、そうした気持ちや態度が徐々に身に付き始めている児童もいる。しかし、まだまだ全体としての広がりには至っておらず、友達の誤りを見つけても忠告することで嫌われてしまうかもと傍観的な立場をとる児童や、素直に忠告を受け入れることができずに反発してしまう児童がいるのが現状である。そこで、これまでの学習や経験をふまえ「本当の友達だったらどう行動すべきか」についてより深く考えさせていきたい。

本学級の児童に「友達に関するアンケート」を行った。その結果は、以下のとおりである。

友達に関するアンケート（実施日 令和元年5月9日（木） 調査人数 31名）

1 あなたが考える友達とはどんな人ですか。

・やさしい人 ・おもしろい人 ・一緒に遊ぶ人 ・約束を守る人 ・助け合える人 ・仲良くしている人

2 あなたには親友とよべる友だちはいますか。

①いる 24名 ②いない 0名 ③わからない 7名

3 親友がもし言葉遣いが悪く、周りの友だちを傷つけているとしたら、あなたは親友に言葉遣いをなおした方がいいよと言ってあげることができますか。

①できる 9名 ②どちらかといえばできる 13名 ③どちらかといえばできない 8名 ④できない 1名

4 それはなぜですか。

【できる、どちらかといえばできるの理由】

・他の友達を傷つけてはいけないから。 ・言われている人や周りの人もかわいそうだから。
・嫌われてほしくないから。 ・言葉遣いを直せばもっと楽しく遊べるし、みんなと仲良くできるから。

【できない、どちらかといえばできないの理由】

・怒られそうだから。 ・言い返されたらこわいから。 ・勇気がないから。

これらの結果から、児童の中では親友と呼べる友だちがいる児童が多いことがわかる。また、児童によって「友達」についての考え方に開きがある。親友の行動に注意をしたり指摘したりできると答えた児童が多い中、できないと答えた児童の考えには、相手のことを考えた行動よりも、自分の心の弱さが表れている回答が見られた。

日々の学校生活の中で、チーム力を大切に様々なことに取り組んでいる本学級の児童が、それぞれの友情のとらえ方を一歩深め、高められるよう、道徳科の授業においても話し合いを深めていきたい。そして、年度末に振り返った時、互いのよさに気づき、認め合い、協力することのできる友達関係を育てていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

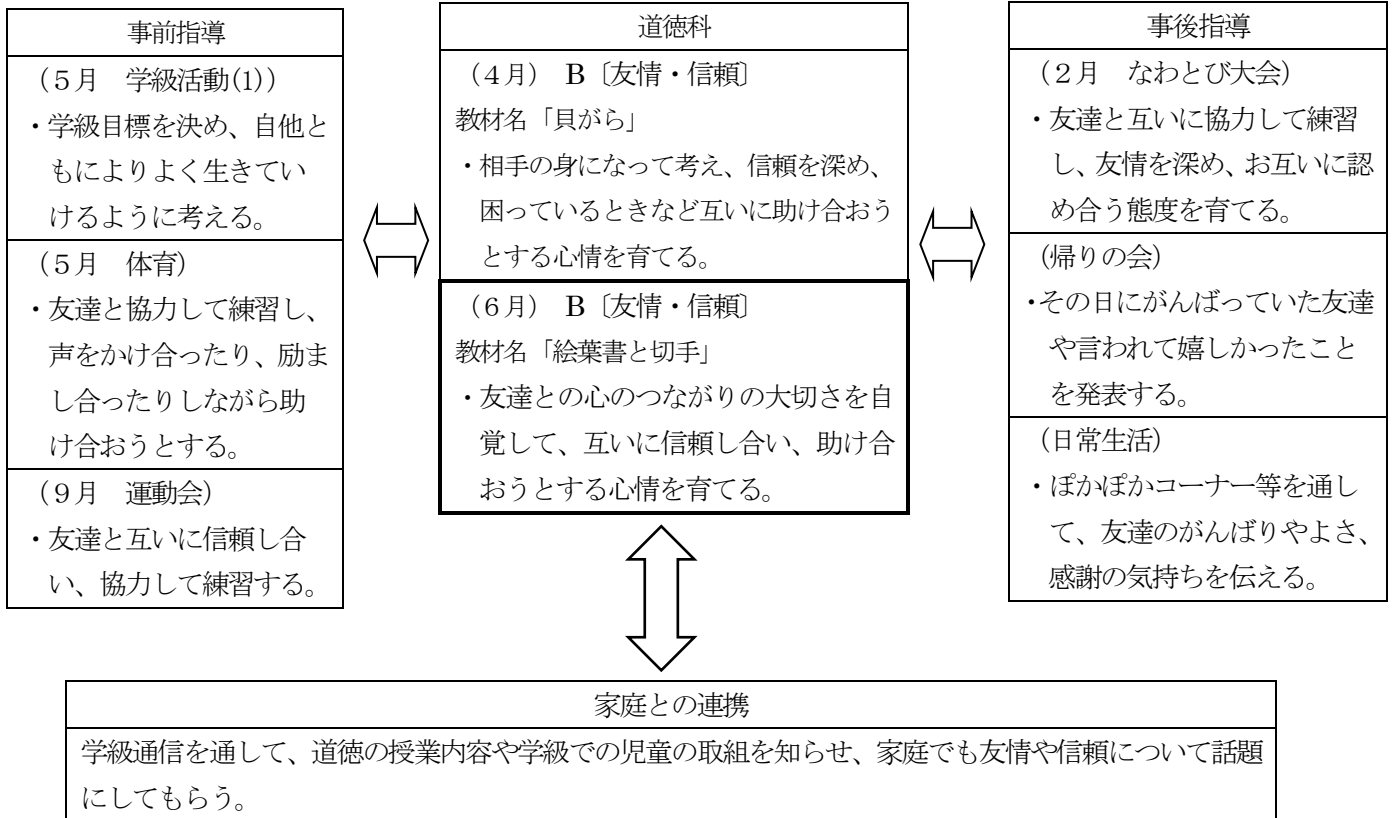
本教材「絵葉書と切手」を用い、仲良しの友達から届いた定形外郵便物の料金不足について、本人にそのことを伝えるかどうかを迷うひろ子の気持ちを中心に考えていく。その際、母の「せっかくきれいな絵はがきを送ってくれたのに相手に悪い。」という考えと、兄の「友達だからこそ間違いを言ってあげた方がいい。」という考えの間で、料金不足のことを書こうか書くまいか迷うひろ子の気持ちに十分共感させたい。児童は、「伝える」「伝えない」のどちらの考えが本当に友達のためになるのかを試行錯誤したり、友達の意見と比較したり、出た意見をもとにして自分の考えを吟味したりすることで、互いに信頼し、助け合い、時には忠告や間違いを正すことがなぜ大切なのか理解できると考える。そして、伝えたくないという理由には「自分が悪く思われたくない」、「嫌われるかもしれない」という自分を守ろうとする気持ちや恐れ、「相手を傷つけない」という気持ちがあることに気付かせたい。ひろ子の正子を思う気持ちを話し合う中で、友達を信頼することの大切さや「本当の友情」について考えを深めることができると考える。以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	<p>1 事前アンケートの結果から、それぞれがもつ「友達」についての考えを知る。</p> <p>・アンケート結果を見て、どんなことに気付きましたか。</p>	<p>「友達」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んで楽しい人 ・協力できる人 ・助けてくれる人 ・相談にのってくれる人 	<p>・現時点で児童のもつ「友達」についての考えを全体で共有し、提示した状況について話し合いながら、「友達」に関わる生活経験の想起をさせる。</p>	3
展開	<p>2 登場人物、条件・状況について知る。</p>		<p>・登場人物の絵やカードを用いて、条件・状況をおさえる。</p>	3
	<p>登場人物 ひろ子 正子 ひろ子の母 ひろ子の兄 条件・状況 転校した大の仲良しの友達「正子」から絵葉書が届き喜ぶひろ子。だが、その絵葉書は料金不足で届き、ひろ子の家が払うことになる。ひろ子はこのことを友達の正子に伝えるべきか、迷ってしまう。</p>			
開	<p>3 教材「絵葉書と切手」の読み聞かせを聞く。</p> <p>4 主人公「ひろ子」の葛藤する気持ちを中心に自分を振り返りながら考え、話し合う。</p> <p>(1) ひろ子は何を迷っていたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・料金不足のことを正子に伝えたほうがいいのか、伝えないほうがいいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちを中心に考えながら聞くことができるよう、共感できる箇所に赤線を引かせながら読み進める。 ・主人公が何に迷っているかを考え、その問題の解決をみんなで考えていくようにする。 ・絵葉書をもらったひろ子が感激する場面に共感させ、正子とひろ子は互いを思い合う仲のよい友達であることをおさえる。 	2
	<p>(2) ひろ子は、料金不足のことを正子に伝えたほうがいいのか、伝えないほうがいいのか、どうしたらよいのでしょうか。</p>	<p>【伝えない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正子に嫌われそうだから。 ・正子が嫌い、料金不足のことを伝えていると思われるかもしれないから。 ・せっかく絵葉書をくれたのに正子に悪い。 ・正子が嫌な思いをしてしまうかもしれないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠を伝えながら、話し合わせることで、自分を振り返りながら話し合うことができるようにする。 ・子供の意見を聞き、問い返して質問をすることで、さらに深く考えられるようにする。 	20

	<p>5 本当の友達とは何かについて話し合う。</p> <p>・「本当の友達」ってどんな友だちでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正子と友達でいられなくなるから。 【伝える】 ・教えなかったら、また同じことをしてしまうかもしれないから。 ・自分だったら言ってほしいから。 ・正子のために言わなければ。 ・正子が恥をかいたらかわいそう。 ・親友の私が言えば、正子ならわかってくれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・言いにくいことでも、相手のために言うことが本当の友達だ。 ・何でも言い合える関係が本当の友達。言い方も大切なんだ。 ・相手のために思って行動できる関係が本当の友達。 	<p>☆「伝えない」または「伝える」と考える根拠を基にしながら友情について多面的に話し合っている。(話し合いの様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えると答えた児童には、自分ならどう言うか、相手のためとはどういうことか、切り返しの発問をし、考えを深められるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「本当の友達としてどう行動すべきか」という課題に対して、一人一人が自分の考えをもって、自分自身の課題として考えられるようにする。 ・グループで話し合ったことを発表させ、クラス全体の意識を高められるようにする。 	12
<p>終末</p>	<p>6 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。</p> <p>・今日の学習で考えたことや学んだこと、これからの生活に生かしたいことを書きましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が間違えた時は友達にも伝えてほしいし、友達にもきちんと伝えることが大切。 ・これからは、友達にもきちんと注意したい。 ・はじめは伝えないと思ったけど、友達の考えを聞いて、伝えようと思った。 ・伝えるときの言い方も大切だとわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートに書く活動を通して、一人一人が道徳的価値についての自覚を深められるようにする。 <p>☆これまでの自分を振り返りながら、友情に関して自分の考えを見直している。(ワークシート)</p>	5

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・登場人物に自分を投影したり、自分自身や友達の考え方と比べたりしながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・友情のよさについて、友達にただ同調するだけでなくよりよい友達関係を築いていこうとする思いを、自分との関わりで考え、ワークシートに書いている。

7 板書計画

